

まち歩き&座談会 テーマ「国分寺の湧水と養蚕」(レジュメ)

○湧水

お鷹の道・真姿の池湧水群(環境省選定の名水百選、東京の名湧水 57 選)

市内の東京の名湧水 57 選: 姿見の池、新次郎池、殿ヶ谷戸庭園

元町用水(清水川)・・・野川(国分寺市～世田谷区)の支川

国分寺崖線・・・古多摩川による武蔵野台地浸食によって形成された河岸段丘(段丘崖)の連なり。目視的には、国分寺市(ハケノのはじまり)から世田谷区まで約 20 ㎞。高低差 2m から 20m。 かけがえのない自然遺産

段丘崖の地層・・・表土→関東ローム層→武蔵野礫層(帯水層)→上総層

「はけ」* 大岡昇平、武蔵野夫人「土地の人はなぜそこが『はけ』と呼ばれるかを知らない。・・・流れ出る水を遡って斜面に深く喰いこんだ、一つの窪地を指すらしい」

○養蚕(生糸)

起源・・・中国(紀元前 2750 年頃【推定】)⇒日本(紀元前 500 年～400 年頃)

日本書紀の記述(雄略天皇、后)

発展・・・江戸時代(中期)～幕末(開港)～明治(官営富岡製糸場)～大正・昭和

蚕の一生: 蚕種⇒毛蚕(けご)⇒2 令～5 令⇒繭⇒産卵 * 微粒子病

絹の道: 八王子(桑都)⇒横浜 養蚕棟 1 日盆(勝手盆) 四中校歌「土器に生けたる桑の葉の・・・」

衰退(第二次大戦、化学繊維)、現在・未来・・・大規模養蚕、衣料から医療へ

令和元年 11 月 11 日

NPO まちづくりサポート国分寺 龍神 瑞穂